

新居浜高専 平成24年度年度計画及び事業実績

	平成24年度 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>【1. 教育に関する事項】 (1) 入学者の確保(学生募集活動、女子学生確保、入試方法の改善等)</p>	<p>(1) 入学者の確保 ○継続して実施する事項 ①中学校長会の新規理事校および校長が交代した理事校を校長・副校長が訪問し、教育・入試・進路等の概要を説明する。 ・創立50周年記念事業の実施や報道機関等とおして、積極的に広報を行う。 ・イベントや研修会などの開催案内をホームページに掲載すると共に、ケーブルテレビや記者クラブに情報を発信する。 ・月1回メールマガジンを発行する。学校訪問やイベント等、機会がある毎にメールマガジンへの登録案内を行う。 ・広報推進本部の入試広報担当、イベント担当、広報誌企画担当、ホームページ運営担当、メールマガジン担当が中心となり、入学志願者数が前年度を上回るように、効率的な広報活動を行う。 ②中学校長、進路指導主事等を対象に地区別学校説明会を開催する。パンフレットを活用し、女子中学生への広報に努める。また、女子学生の就職先企業の新規開拓に努める。 ③中学生向けの新居浜高専紹介冊子「はばたけ！未来へ」、学校紹介DVD、学校説明会用CDやイベントで配付するリーフレットに就職・進学に関する最新情報を掲載する。また、「はばたけ！未来へ」には卒業生や在校生の情報を載せる。さらに、機構作成の広報資料を活用する。 ④入学生の成績と過去の学生の成績の比較・分析を継続して行う。 ⑤機構からの調査事例を参考にする。 ○新たに実施する事項 ・これまでの中学生対象に加え、保護者向けのPR小冊子作成・小学高学年への土曜塾等を検討し、在学生による出前講座の充実などターゲット別の広報活動を充実する。 ・広報の一環としてサテライトオフィスの設置を検討する。</p>	<p>(1) 入学者の確保 昨年度、目標とした入試倍率1.8倍を達成し、今年度もこれを維持することができた。 ○継続して実施する事項 ①愛媛県小中学校長会の新規理事校と校長が交代した理事校計12の中学校を、校長・副校長が5月に訪問し、教育・入試・進路等の概要を説明した。 ・創立50周年記念事業として実施した(1)旧青函連絡船「羊蹄丸」の一般公開(4月27日～6月10日、来場者約6万人)、及び、(2)東予地域の産業技術や製品、ものづくりを紹介する「あかがね工業博2012」(10月6日、7日、来場者約7千人)を通じて、積極的な広報を展開した。 ・学内イベントや研修会の開催案内をホームページに掲載すると共に、実施概要等を記者クラブ等へも提供した。 ・メールマガジンを毎月発行し情報発信するとともに、学校訪問やイベント開催時にメールマガジンへの登録案内を行い、登録数は前年度末の756人から844人に増加した。 ・10月から、入試案内及び学校PRをケーブルテレビで放映し、より広く広報活動を展開した。 ・広報推進本部では、担当責任者の情報交換の機会を定期的に設け、連携を図った。また、学校説明会や中学校訪問等を通して、中学校の進路情報を収集した。 ②6月に、愛媛県内4地区で地区別学校説明会(参加校60校)を実施した。機構作成のパンフレット等を利用し、女子中学生に積極的に広報を行った。また、各学科では、女子学生の就職先企業の新規開拓に努めた。 ・今年度設置した男女共同参画推進室において、女子学生の増加に対応する施設、設備について検討した。また平成25年度からホームページに関連情報を掲載することになった。3月の高専女子フォーラムで3件の発表をした。 ・機械工学科棟1Fのトイレを女子用に改修し、洋式トイレやパウダールームを設置した。 ③夏季体験学習(7月27日、28日、参加者737名)、ものづくりフェスタin松山2012(8月3日、4日、参加者63名)及び学校見学会(9月8日、参加者延べ401名)等を開催し、参加した中学生とその保護者に、最新の就職・進学情報を掲載したリーフレットを配付するとともに、機構作成の広報資料も活用した。また、中学生に配付する新居浜高専紹介冊子「はばたけ！未来へ」、学校紹介DVD及び学校説明会用CDに、就職・進学に関する最新情報を掲載した。 ④定期試験の結果を分析し、平成22年度入試から変更した選抜方法(試験点と調査書点の比率の変更)の妥当性を検証した。来年度も継続して行う。 ○新たに実施する事項 ・受験者数が近年減少している広島県福山地区の入試広報に力を入れることになり、年度ごとに割り振りをして中学校訪問をすることにした。保護者、小学生等のターゲット別の広報については、検討の結果、見送ることとなった。 ・大洲市の施設の一部を借り、パンフレット等を置き広報の拠点とする簡易なサテライトオフィスを、弓削商船高専と共同で設置した。 ・創立50周年記念事業の一環として、本校のキャッチコピーを公募の上、決定した。次年度から広報活動に利用する予定である。</p>
<p>(2) 教育課程の編成(学科再編、大括り化・コース制の導入、専攻科の充実等)</p>	<p>(2) 教育課程の編成等 ○継続して実施する事項 ①②機構が策定したモデルコアカリキュラムに基づいて講義内容を検討する。「学校改革推進室」の下に設置されている「将来計画検討WG」において高専の高度化に関して継続して検討を行う。 ③学習到達度試験「数学」、「物理」の結果を、各科目の担当教員が分析し、FDIに役立てる。 ・全学生が受験したTOEICの受験結果を参考に、英語力の向上を図る。 ④「勉強アンケート」および「授業アンケート」を継続し、その結果を分析し、学生および教員にフィードバックする。また、本科5年生および専攻科2年生の卒業・修了時に実施した学校評価アンケートの結果を、今後の教育改善に活かす。 ⑤機構が主催・共催するすべてのコンテストに参加するとともに、その他の高校生対象コンテスト等にも参加を推奨、支援する。また、学内の「ものづくりコンテスト」を開催する。 ⑥新居浜市や社会福祉協議会と連携し、ボランティア機会の周知、推奨を行う。 ○新たに実施する事項 ・地域ニーズに応じた専攻科の再編、あるいは専攻の新設に向けて検討する。</p>	<p>(2) 教育課程の編成等 ○継続して実施する事項 ①②各学科、科の教務委員が中心となり、モデルコアカリキュラム(試案)の学習項目と本校の開講科目の対応表を、作成した。平成25年度は、対応の欠けている部分の一部を補うよう計画した。残りの部分については継続して検討する。 ③数学、物理の各担当教員が、試験結果の分析と今後の指導予定について、教員会で報告した。 ・全学生が受験したTOEICの受験結果を参考に、英語強化対策委員会及び英語科で検証し、英語力の向上を図った。 ④「勉強アンケート」および「授業アンケート」を継続し、その結果を分析し、学生および教員にフィードバックした。また、今後の教育改善に活かすため、本科5年生および専攻科2年生の卒業・修了時に実施した学校評価アンケートを実施し、結果を集計中である。 ⑤機構が主催・共催するすべてのコンテストに参加するとともに、その他の高校生対象コンテスト等にも参加を推奨するため、各種情報の学内周知を徹底し、経済面での支援も行い、デザインコンテスト、キャンパスベンチャーウランプリ等では成果を得た。また、学内の「ものづくりコンテスト」は、あかがね工業博の企画として開催した。 ⑥奇術部が福祉公演を7回、ローターアクト部が子供向けボランティアを3回実施した。 ・本校学生会が新居浜市との里親契約に基づき、一般学生や教職員に参加を呼びかけ、毎週1回本校西側道路を自主的に清掃した。 ○新たに実施する事項 ・高専の高度化に向けて、専攻科の生産工学専攻機械工学コースにおいては、地元企業ならびに大手企業からのヒアリングをもとにカリキュラムの見直しを行っている。 ・将来計画検討WGから、専攻科を現在の3専攻から1専攻4コース制へ大括り化するという提案が出された。平成25年度に検討する。</p>
<p>(3) 優れた教員の確保(採用方針、女性教員採用、他機関との交流、FD等)</p>	<p>(3) 優れた教員の確保 ○継続して実施する事項 ①教員の採用については、すべて公募形式で行っているが、更に選考委員会や人事委員会において、優れた教員確保に努め、教員の採用に際し、高専教育に有用な種々の経歴を持つ人材にも留意する。 ・新規採用教員に対するFD体制を充実させる。 ②「高専・両技科大間教員交流制度」を活用し、教員の受入・派遣を推進する。 ③優れた教員を採用するため、教員採用の公募において、公募条件等を精査する。 ④女性教職員からの意見を参考にしながら、環境整備の検討、改善を推進し、教職員の採用・昇任に際し、男女共同参画社会宣言を尊重する。 ⑤機構が主催する研修会には、必ず1名以上が参加し、また、その結果については、教員会等で報告する。 ・教員の授業参観を、中学校・高等学校との間で相互に実施する。 ⑥機構の顕彰制度に加えて、学内顕彰も継続して実施する(優秀教員、優秀担任)。 ⑦常勤教員による授業措置等、国内外研究員として参加しやすい環境(支援体制)を充実させる。 ○新たに実施する事項 ・女性教員や優れた教員の確保のためのシステムを検討する。</p>	<p>(3) 優れた教員の確保 ○継続して実施する事項 ①25年度の教員の採用に際しては、大学や海外での教育経験等、本校の教育に有用な人材の確保に努め2名の教員の採用を内定した。(内女性1名) ・4月に新規採用教員の学内研修を実施するとともに、高専機構主催の新任教員研修会には新任教員全員が参加した。 ②「高専・両技科大間教員交流制度」を活用し、今年度から2年間1名の教員を東京高専へ派遣している。 ③人事委員会において、各学科の人事計画を参考にしながら全学的立場から教員の公募を進めている。公募の都度、募集要項の精査を行っている。 ④平成25年4月採用予定の公募要領においては、「本校では男女共同参画社会の形成に配慮し、女性応募者も歓迎いたします」という一文を付した。 ・平成25年4月1日付けで女性教員(1名)の採用を内定した。 ・校長と女性教職員との懇談会を開催し、アンケートを基に、施設面での要望や、育児期間中の教職員への配慮などについて、意見交換した。意見要望に基づき、女子休憩室の営繕要求を行った。(25年度工事実施予定) ⑤機構が主催する研修会には必ず参加し、その主なものについて、教員会で報告を行った。 ・教員の授業参観を、中学校・高等学校との間で相互に実施した。 ⑥機構の教員顕彰候補者2名(早瀬伸樹、安里光裕)を選出するとともに、学内顕彰として、校務、学生指導に精力的に取り組んだことを評価し、最優秀教員2名(早瀬伸樹、安里光裕)、優秀教員3名(野田善弘、香川福有、谷脇充浩)及び最優秀学級担任1名(加藤茂)を決定した。 ⑦常勤教員による授業措置及び非常勤講師を採用することで在外研究員(米国UCLA)1名と内地研究員(東京大学)1名を派遣した。 ○新たに実施する事項 ・各学科で定員枠が固定され教員の昇進が遅れるケースが少なからず見られるため、人員枠を一時的に流用できることとした「教員の人員枠に関する申し合わせ」を策定した。 ・科学技術に関する研究開発や理解増進などにおいて、顕著な成果を収めた者を表彰する「文部科学大臣表彰」を2名の教員[出口幹雄(科学技術賞 理解増進部門)、高見静香(若手科学者賞)]が受賞した。</p>
<p>(4) 教育の質の向上・改善(自己点検評価、JABEE認定、共同教育、企業人材の活用等)</p>	<p>(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム ○継続して実施する事項 ①開発した教材や教育方法については、教員会で紹介すると共に、FD研修会での発表や「高専教育」等への投稿を推奨する。 ・WebClass(自学・自習)やアルク教材(授業、自学自習)の有効活用を図る。 ・科目間調整連絡会を継続し、専門基礎科目と専門科目の一層の連携を図る。 ②JABEE推進室の委員会の下、教育の質の向上を図り、次期審査に向けて立ち上げられたワーキンググループにおいて、より具体的な活動計画について検討を行う。 ③四国地区高専間の学生会交流や全国高専交流会に参加する。 ・特色ある教育方法等の情報を、機会ある毎に、メール等により学内に周知する。 ④総合データベース「KOALA」で公表された教育実践例や取組例を参考に、教育方法の改善を促進する。 ⑤機関別認証評価の結果を踏まえて、より一層、種々の改善に取り組む。 ⑥本科4年生および専攻科1年生全員がインターンシップを実施できるよう支援する。 ・新居浜工業高等専門学校技術振興協力会「愛テクフォーラム」に登録されている企業と連携して、現職企業人による講義(経営工学)の充実を図る。また、他のCOOP教育についても実施する。 ・愛媛大学の包括協定により、非常勤講師の推薦(薦旋)やインターンシップ、ものづくりフェスタの開催などを実施する。 ⑦新居浜出身の大手企業退職者に非常勤講師として講義を担当してもらう。 ⑧四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)の研修に参加する。 ⑨メディア教材の利活用を積極的に促進する。 ○新たに実施する事項 ・平成26年度受審予定の機関別認証評価に向けて、教育改善の取組について細部までチェックする。 ・地域連携、教育の高度化に向けた「エンジニアリング・デザインセンター」を組織する。</p>	<p>(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム ○継続して実施する事項 ①電気情報工学科の教育改善の取り組みについて教員会で報告した。 ・WebClassを自学・自習教材の提示や勉強アンケート集計に活用するほかアルク教材を自学自習用に活用した。 ・数学、物理の科目間調整連絡会を1月に開催した。 ②JABEE新基準(2012年度版)への対応について、各プログラムにおいて検討した。 ③四国地区総合文化祭(12月、三豊市)に文化系サークル所属の学生が出席し、他高専学生との交流を行った。 ・特色ある教育方法等の情報を、機会ある毎に、メール等により学内に周知した。 ④総合データベース「KOALA」で公表された教育実践例や取組例を参考に、教育方法の改善を促進する。 ⑤機関別認証評価の結果を踏まえて、より一層、種々の改善に取り組む。 ⑥本科4年生及び専攻科1年生全員がインターンシップに参加した。 ・「愛テクフォーラム」と連携して、講義内容に適した現職企業人[「経営工学(5年後期)」の講師を依頼している。また、企業人材、高専OBを活用したプログラムの実施について次年度に向けて検討を進めている。 ・経営工学(5年生必修科目1単位)の非常勤講師1名、第50回工業技術懇談会(創立50周年記念事業)の講師1名が愛媛大学から派遣された。 ・愛媛大学の8研究室(工学部6研究室(18名)、農学部2研究室(5名))でインターンシップを実施した。 ・8月3、4日愛媛大学を会場として、小中学生対象の「ものづくりフェスタin松山」を開催し、小、中学生合わせて63名の参加があった。 ⑦企業退職者4名が経営工学の非常勤講師として講義を担当している。 ⑧6月11日に、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)の講師によるFD研修会(講話題目:高専生を元気にする学生指導法のコツ)を実施した。また、SPOD-FDプログラム「ティーチングポートフォリオ作成ワークショップ」が、9月と3月に阿南高専で開催され、教員が各1名参加した。 ⑨プロジェクト等を積極的に活用し、視覚に訴える講義を実施している。 ○新たに実施する事項 ・平成26年度受審予定の機関別認証評価に向けて、教育改善の取組について細部までチェックを開始した。 ・地域連携、教育の高度化に向けた「エンジニアリング・デザイン教育センター」の組織化を決定した。</p>

新居浜高専 平成24年度年度計画及び事業実績

	平成24年度 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>(5) 学生支援・生活支援 (メンタルヘルス、生活支援、キャリア教育 等)</p>	<p>(5) 学生支援・生活支援等 ○継続して実施する事項 ①メンタルヘルスに関する講習会には、必ず1名以上が参加し、教員会等で報告し周知を図る。 ・メンタルヘルスに関する教職員向けの学内研修会を開催する。 ・昨年度設置された「特別支援教育推進室」を活用し、より一層の学生ケアに努める。 ②学生の図書館利用を推進する。(新入生への図書館利用案内、学生によるブックハンティング、クラス別利用状況の公開と表彰、読書感想文表彰など) ③各種奨学金制度(財団法人三浦教育振興財団、財団法人中西奨学会、愛媛県奨学生、公益信託武智義加ものづくり奨学基金、財団法人関育英奨学会など)については、教室への掲示や担任等を通じて、学生への周知(案内)を行う。 ④キャリア教育を推進するため、新居浜高専技術振興協会「愛テクフォーラム」を中心とした学生と地域産業界との情報交換の場を設ける。 ・校内に設置している「キャリア教育プラザ」の有効利用を図る。 ・企業説明会を継続して開催する。 ⑤東日本大震災を受けた学生に、経済支援制度があることを周知する。</p>	<p>(5) 学生支援・生活支援等 ○継続して実施する事項 ①四国地区学生相談連絡協議会、障害学生ブロック別地域連携シンポジウム及び全国国立高専メンタルヘルス研究集會に出席した。 ・学生相談メンタルヘルス研修会及び新居浜市中高特別支援教育コーディネーター連絡協議会に参加した。 ・外部機関(地域若者サポートステーション)と連携し、学生の進路や就労の支援を行った。 ・専攻科新入生に対してメンタルヘルス講話を行った。 ・学生相談室だよりを9回発行し、学生のメンタルヘルスに対する意識を向上させた。 ・教職員向けに「高機能自閉症等の支援」に関する講演会を9月に実施した。 ・アサーション(より良い人間関係を築くための、自分も相手も大切にしたい自己表現法)に関する講演会を12月に実施した。 ・身体障がい・発達障がい・精神疾患などをもつ学生で、修学環境の改善や調整が必要な場合について、特別支援教育推進室を中心に組織的支援を行った。 ・肢体の不自由な学生1名に対し、介助員(延べ2名)を配置し、修学および生活上の介助を行うと同時に、当該学生のメンタルケア、修学環境の調整・改善を行った。 ・外部の医療機関や相談機関(こども発達支援センター)と連携し、当該学生のメンタルケアを行うとともに、修学環境の調整に取り組んだ。 ・自閉症の学生1名に対して入学前相談の機会を設けた。クラス編成や担任の選定について配慮し、市の関係部署と情報を共有しながら、様子を観察した。その結果、特に問題は起こらず、順調であった。 ・一人では授業に出ることができない学生に対し、保護者と協力し、看護師や保護者が教室の前まで付き添ったり、休憩時間中には保護者等と過ごすことができるよう、部屋の貸出を行ったりした。 ②新入生への図書館利用案内を4月、5月に実施した。学生によるブックハンティングを6月23日と11月17日に実施した。また、クラス別利用状況の公開と表彰及び読書感想文表彰等も行い利用促進を図った。 ③各種奨学金制度の募集案内がある都度、教室等への掲示や担任等を通じて、学生へ周知を行い、その結果、延べ201名が奨学生に採用された。 ④機械工学科2年生を6班に分け、少人数による地元中小企業の工場を訪問し生産現場の現状、学校にはない特殊な多くの生産設備の構造などを見学した。 ・12月、本校技術振興協会「愛テクフォーラム」法人会員企業2社による会社紹介・説明会を開催し、本科4年生18名が参加した。 ・「キャリア教育プラザ」において、愛テクフォーラム法人会員企業のパネルを展示するとともに資料を設置している。 ・機械工学科と(財)東予産業創造センターが「ものづくり体験講座」の体験実習を担当し、中学生等を対象とした地域の「ものづくりキャリア教育」を推進している。 ・2月に、本科4年、専攻科1年及びその保護者を対象に、80社の企業を集めた企業説明会を本校体育館において実施した。 ・就職情報誌から提案のあった一般常識テスト(無料)を利用し、本科4年に筆記試験対策を行った。 ・就職情報誌から提案のあった「学研・就職研究 高専版」を本科4年、専攻科1年に配付し、学生に全国の高専から採用された社会人の声を届けた。 ・労働局から提案のあった、来春卒業予定の学生を対象にした「労働法に係る研修」を実施(3学科)し、社会人になった後に必要な知識の習得を図った。 ⑤東日本大震災を受けた学生に、経済支援制度があることを周知するため学内調査をしたが、本校に被災学生はいなかった。</p>
<p>(6) 教育環境の整備・活用(施設マネジメント、教育環境充実、環境配慮、寄宿舎整備 等)</p>	<p>(6) 教育環境の整備・活用 ○継続して実施する事項 ①施設・設備の利用率調査を計画的に実施し、より有効な活用法を検討する。 ・実験施設の安全面等の調査を引き続き行うとともに、地震だけではなく大規模災害等を踏まえ作成したマニュアルの周知徹底を図る。 ②引き続き校内の緑地整備を実施する。 ・校内環境に対する意識調査を実施する。 ・教育者としての居住環境の機能改善を中心とした整備を検討する。 ・節電への取組を行う。 ③本校の安全マニュアル(学生版、教職員版)を配布し、有効活用する。 ・各実験科目のガイダンス時(初回実験時)に、安全教育を実施する。 ○新たに実施する事項 ・概算要求をしていた機械工学科及び環境材料工学科の実習棟の改修を含む「エンジニアリング・デザインセンター」の建物・設備について検討する。 ・基盤設備(ライフライン)の整備について検討を行い、防災機能の強化を図る。</p>	<p>(6) 教育環境の整備・活用 ○継続して実施する事項 ①学内監査を行い、各部屋が有効利用されているか、遊休施設が存在しないか調査を行い、施設有効利用の基礎資料とした。 ②樹木剪定や除草等を計画的に実施している。 ・構内環境に対する学生の意識調査結果に基づき、要望箇所の整備を行った。 ・安全衛生委員会による構内パトロールを実施して安全面の調査・改善を行った。 ・全学寮において情報ネットワーク設備の更新を行った。また、第1浴室の給湯設備を改修した。 ・環境保全委員会において、節電の取り組みを検討し、節電ポスターの作成配布、ノーエアコンデーの完全実施、昼休みの消灯など教職員一丸となって、省エネに取り組んだ。また、夏季の電気使用量の推移を全教職員に通知し、意識の向上を図った。 ・暖房用ボイラーの全廃と高効率型空調機への更新を推進して、省エネ・温室効果ガス排出量削減を行った。 ③安全衛生委員会を中心に本校の教職員用安全マニュアルの内容を見直し修正し、新年度から新たに配布することとした。 ・各実験科目のガイダンス時(初回実験時)に、安全教育を実施した。 ○新たに実施する事項 ・学校改革推進室に設置した施設充実分科会において、「エンジニアリング・デザイン教育センター」整備について、将来計画をとりまとめた。 ・ライフライン整備について現状調査・検討を行い、概算要求書を提出した。その結果、平成24年度補正予算で予算化された。</p>
<p>【2. 研究に関する事項(外部資金獲得、産学連携、知財管理 等)】</p>	<p>2 研究に関する事項 ○継続して実施する事項 ①教員会において科学研究費補助金等の申請の説明および推奨を行う。 ②年間業績報告書を作成する。 ・新居浜高専技術振興協会「愛テクフォーラム」と連携して企業との共同研究を推進する。 ③本校の高度技術教育研究センターが中心となって、研究成果の発表を推奨する。 ・高度技術教育研究センターが中心となって、教員の研究を支援(奨励)し、その研究成果の知的財産化を推進する。 ○新たに実施する事項 ・教員の研究活動促進のため、特別奨励研究公募制度を発足させる。</p>	<p>2 研究に関する事項 ○継続して実施する事項 ①6月に文科省及び近隣大学から講師を招き、科学研究費助成事業説明会を開催した。 ・申請数の増加を目指し、10月の教員会において、科研費申請書の書き方、留意点を詳細に説明した結果、申請数が約2倍となった。(H24年度新規24件→25年度42件(奨励研究含む)) ・科研費申請書の校長によるブラッシュアップを実施した。 ②平成23年度分年間業績報告書を作成した。 ・新居浜高専技術振興協会「愛テクフォーラム」から本校と同協会法人会員企業との共同研究に結びつける事業として「萌芽的研究」に対し助成金を受け入れ、現在、研究を進めている。 ③高度技術教育研究センターが中心となり、様々な研究成果発表会への参加を勧めるとともに発表についての推奨も行った。 ・高度技術教育研究センターが中心となり、教員の研究支援を推進し、研究成果の知的財産化を目指して特許出願等の推進を行った結果、新規の出願はなかったが、2件の特許査定があった。 ○新たに実施する事項 ・昨年度科研費が不採択となった教員のうち、評価の高かった者に対し、翌年度の獲得を目指し、校長裁量経費による特別奨励研究公募制度を設け実施した。</p>
<p>【3. 社会との連携、国際交流等に関する事項(地域技術者育成への貢献、理科教育支援、卒業生ネットワークの構築、国際交流協定の締結、学生の海外派遣、留学生の受入 等)】</p>	<p>3 社会との連携、国際交流等に関する事項 ○継続して実施する事項 ①企業との共同研究を促進しつつ、新居浜高専技術振興協会「愛テクフォーラム」の充実を図る。 ・地域で推進しているものづくり人材育成事業に積極的に参加する。 ②産学官連携コーディネーターを活用し、研究の活性化・促進を図る。 ・新居浜高専研究シーズ集、高度技術教育研究センター報の充実を図る。 ③企業と連携し、学生が講師役を務める出前授業を継続する。 ・小、中学校の理科・技術系教員を対象にした研修会を開催する。 ④出前講座を含む各種イベント等においてアンケートを実施するとともに、KOALAを通じて内容の充実を図る。 ⑤学園祭(国領祭)において、卒業生の集いの場を設ける。 ・本科1、2年生を対象にした「卒業生講話」を継続して実施する。 ・同窓会と連携し、創立50周年記念事業を成功させる。 ・「全国高専同窓会連絡会」との連携を図る。 ⑥-1ポリティクニックなどへの参加を検討する。 ⑥-2国際交流推進室が中心となって、一層の留学生指導を行うとともに、機構が開催する研究会に参加する。 ・学術交流協定校での海外研修を引き続き実施する。 ・学生、教員とも海外インターンシップへの参加を推奨する。 ⑦継続して留学生を受け入れ、留学生指導に関する研究会にも参加する。 ⑧留学生の研修旅行を実施する。 ○新たに実施する事項 ・国際感覚を身に付けさせるため、低学年での全員参加海外研修旅行の実施に向けて検討する。 ・機構実施に加え、本校独自の海外インターンシップの実施に向けて検討する。</p>	<p>3 社会との連携、国際交流等に関する事項 ○継続して実施する事項 ①企業との共同研究を促進しつつ、「愛テクフォーラム」が実施する事業を見直し、活性化を図ることを検討している。 ・8月に(社)新居浜ものづくり人材育成協会主催の「ものづくり担い手育成事業(機械加工コース、マシニングセンタ加工コース)」に技術職員が講師として参加協力した。 ②四国地区産学官連携コーディネーターと連携して、「TECHNO-FRONTIER2012」(東京、7月11～13日)と「グリーン・イノベーション2012」(東京、11月14～16日)の展示会に各1名の教員を派遣した。 ・地域の企業等と連携した「介護工学研究会」や「えひめ東予シブプリサイクル研究会」の活動の場として、また、愛テクフォーラムの専門部会会場としても地域共同テクノセンターを利用した。 ・研究シーズ集、研究紹介パネル、高度技術教育研究センター報等を作成し、「愛テクフォーラム」の総会や「テク・フロンティア」「全国高専テクノフォーラム」等各種イベントに出展して広報活動をした。 ③学生主役型出前授業では、本校学生が講師となり授業を行っているほか、依頼元の小中学校の卒業生を出来る限り派遣し、授業だけでなく、進路相談も受けられる機会を作った。 ・8月に地域の小・中学校の理科教員(参加者26名)及び中学校の技術科教員(参加者13名)を対象に実技研修会(後援:新居浜市教育委員会)を開催した。 ④出前講座を小・中学生向け24講座、一般市民向け17講座を開設(HP上に公開)し、10講座について23回開催した。受講者側、特に小・中学生の満足度は高く、今後も継続的に依頼したいとの要望を聞いている。 ⑤学園祭(国領祭)において、卒業生の集いの場を設け、好評であった。 ・本科1、2年生を対象にした「卒業生講話」を継続して実施した。 ・同窓会と連携し、創立50周年記念事業として次の事業を実施した。 (1)同窓会主催のOBによる講演会の実施 (2)同窓会からの寄附金及び記念碑(モニュメント)の寄贈 (3)学園祭(国領祭)でのホームカミングデーの開催 ・新居浜高専同窓会関東支部及び広島支部が組織され、「全国高専同窓会連絡会」との連携窓口とした。 ⑥-1 ISTS2012及び日台IGO2012への専攻科生の参加を支援した。 ⑥-2 国際交流推進室が中心となって、一層の留学生指導を行った。 ・学術交流協定校であるサザンクロス大学(オーストラリア)への研修旅行を3月に実施した。 ・機構主催の海外インターンシップ(ベトナム・ヤマハ発動機)に専攻科生1名が参加し、また、初めて本校独自で海外インターンシップを実施した(専攻科生1名・中国・シンセンテクノセンター)。 ・学術交流協定校である重慶工業職業技術学院から講師1名を約1ヶ月間、外国人研究員として受け入れた。 ⑦平成24年度の新たにインドネシア、マレーシアから留学生を受け入れた。 ⑧留学生の研修旅行(九州、広島方面)を2泊3日で行った。 ○新たに実施する事項 ・昨年度までの海外研修旅行は3年生以上の希望者を対象としていたが、今年度よりできるだけ多くの学生に機会を提供するために、全学生を対象とした。 ・中国徳州市でのインターンシップ実施に向けて、徳州市国際経済技術合作公司総経理と協議会を実施した。</p>

新居浜高専 平成24年度年度計画及び事業実績

	平成24年度 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>【4. 管理運営に関する事項(危機管理体制、教職員の服務監督・健康管理、職員の研修、人事交流等)】</p>	<p>4 管理運営に関する事項 ○継続して実施する事項 ①-1 機構が行う調査に積極的に協力し、得られた情報の学内周知や有効活用に努める。 ①-2セルフチェックリストを活用して、教職員のコンプライアンス意識の向上を図る。 ①-3 高専間相互監査を活用し、相互に事務の適性化に努める。 ①-4 昨年度設置されたリスク管理室のもと、危機管理体制を強化する。 ② 四国地区校長会において、管理運営に関する情報を交換しながら、その在り方について検討する。 ・該当の研修会には参加する。 ③ 事務の効率化・合理化を図るため、本校の「事務マニュアル(案)」「業務手順書(案)」について引き続き検討する。 ④ 該当の研修会には参加する。 ・愛媛大学工学部主催の「工学部等技術部技術発表会」など各種研修会に参加する。 ⑤ 愛媛大学との人事交流を引き続き、計画的に行う。 ⑥ 高専機構の計画に沿って校内LANシステムの整備、高専統一の各種業務システムの導入を本校でも進めている。また、情報セキュリティ対策については、情報セキュリティ管理委員会と情報セキュリティ推進委員会において、機構本部の計画に沿って取り組み体制の整備を進める。</p>	<p>4 管理運営に関する事項 ○継続して実施する事項 ①-1 機構が行う調査に積極的に協力し、得られた情報の学内周知や有効活用に努めた。 ①-2 機構において作成された「コンプライアンス・マニュアル-教職員の行動指針-」を用いて、6月に教職員137名全員が自己点検を実施し、特に問題のある結果はなかった。 ①-3 高知高専と高専相互会計内部監査を実施した。機構の監事監査、内部監査が実施され、指摘のあった事項は学内で共有し、改善計画を立て取り組んだ。 ①-4 一斉点検で使用許可未取得の放射性物質が発見され、リスク管理室において適切に対応するとともに、今後の体制についても検討した。 ② 四国地区校長会においては、機構本部からの出席を得て、有意義な情報交換を実施できた。 ・「管理職研修」に業務主事が出席し、管理運営に関する情報収集を行った。 ③ スムーズな業務の引き継ぎができるよう、マニュアルや手順書の見直しを進めた。 ④ 高専機構の語学研修制度を活用し、本校ではじめて職員対象の語学(英語)研修を実施し、事務職員、施設系職員、看護師計10名が参加した。積極的に英語で「会話」する内容を中心に実施し、語学のみでなく日常のコミュニケーション能力向上につなげた。また、愛媛大学主催の「法人文書管理研修」、「技術・技能職員研修」、岡山大学主催の「中国・四国地区国立大学法人等係長研修」等の国立大学法人が主催する研修会にも積極的に参加した。 ⑤ 愛媛大学から新たに1名の人事交流を受け入れた。 ⑥ 高専機構の計画に沿って校内LANシステムの整備、高専統一の各種業務システムの導入を本校でも進めている。また、情報セキュリティ対策については、情報セキュリティ管理委員会と情報セキュリティ推進委員会において、機構本部の計画に沿って取り組み体制の整備を進めている。</p>
<p>【5. 業務運営の効率化に関する事項(一般管理費の縮減、随意契約の見直し等)】</p>	<p>5 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 ○継続して実施する事項 ・機構が発信する情報に基づき、業務の効率化を検討、推進し、目標達成を目指す。 ・外部資金の獲得を促進する。 ・業務の外部委託化、業務、事務の合理化、簡素化、契約方法の見直し及び運営経費の縮減に努める。 ・平成24年度の計画に基づき、施設設備改修等を行う。 ・施設有効利用の促進を図る。 ・新任教職員を対象に、校長、部長、主事、学科主任がそれぞれ「新任者研修」を行う。 ・本校の将来構想に基づき、業務運営の効率化を推進しながら、人員の適正配置を検討する。</p>	<p>5 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 ○継続して実施する事項 ・機構が発信する情報に基づき、業務の効率化を検討、推進した。 ・本校HP上に作成した外部資金の公募情報掲載ページを常に更新し、教員へ最新の情報を提供すること獲得の促進を図っている。また、教員研究費の配分においては、外部資金の獲得状況も傾斜配分の判断材料としている。 ・学生寮の日直業務及びクラブ活動安全管理指導員業務を外部委託した。 ・平成24年度計画に基づき、合併教室棟外壁・屋根防水棟改修や敷地境界障壁更新整備、寄宿舎内情報ネットワーク整備等を実施した。特に優秀な女子学生の確保を目的に、機械工学科棟の女子トイレを改修し、洋式トイレの増設やパウダールームやフィッティングルームを設置した。また、26年度のセメスター制開始に向け、実習工場の換気扇取り付けや教室の網戸設置など計画的に実施した。 ・学内監査を行い、各部屋が有効利用されているか、遊休施設が存在しないか調査を行い、施設有効利用の基礎資料とした。 ・本校新任教職員学内研修実施要領に基づき、校長、部長及び3主事が基礎研修を実施し、また、情報教育センター長が情報セキュリティに関する研修を行った。 ・複数の課、室に分散している「情報」に関する業務を「図書・情報係」に一元化し、業務の効率化を図るとともに、情報教育センターの支援体制を強化するために、平成25年度から人員の配置を変更することとした。 ・メール便等を利用することにより、年度途中(8月)からではあったが、約30万円の経費を節減することができた。</p>
<p>【6. その他】</p>	<p>6 その他 ・50周年記念事業を引き続き実施する。 ・四国地区他高専との連携による合同事業を検討・推進する。</p>	<p>6 その他 ・創立50周年記念事業として次の事業を実施した。 ①4月21日:創立50周年記念式典、記念講演会及び記念碑(モニュメント)除幕式 ②4月27日～6月10日:旧青函連絡船「羊蹄丸」の一般公開 ③10月6日～7日:あかがね工業博2012 ④11月3日～4日:ホームカミングデイ(同窓会イベント) ⑤50年誌の刊行 ⑥募金事業による教育研究及び国際交流基金の創設 ・新居浜、阿南、高知の3高専が三好市(徳島)で、また、新居浜、高知の2高専が宇和島市でそれぞれ合同の学力入試を実施した。</p>